

入道沢 (作図: 〇)

て繩を利用して懸垂下降。登山道に出た所で昼食。

大滝沢に出るまでは何もナシ。潜滝の上にもう一段の滝があるのを確認。そのまま下れないので、左岸の岩をまいて登山道へ出る。(記: 〇)

〔タイム〕

下降開始一〇:三〇—七時九分滝一:一〇—登山道一:一〇—大滝沢合流点一二:〇五

入道沢 (下降)

一九七八年九月三日

◆天気(曇)

一時五五分下降開始。クマザサの中を五分下ると割合と大きな沼に出た。こんな所にと意外の感じ。まわりをう回して再び下り出したら、今度は前よりは少し小さ

い沼。いずれもミズバシヨウ他湿地の植物が生えている。一二時二〇分ようやくはつきりした沢筋に出たが平凡。二〇分程下ると二俣になる。左俣は水量こそ少ないが一五分の滝が見える。なおも下降を続けるがまったく平凡。一三時二〇分登山道に出て下降終了。あとは列車の時間を気にしながら飛ぶように下って峠駅へ。(記: 〇)

〔タイム〕

下降開始一:一〇—五五—二俣一二:四〇—下降終了一三:二〇—滑川一四:〇五

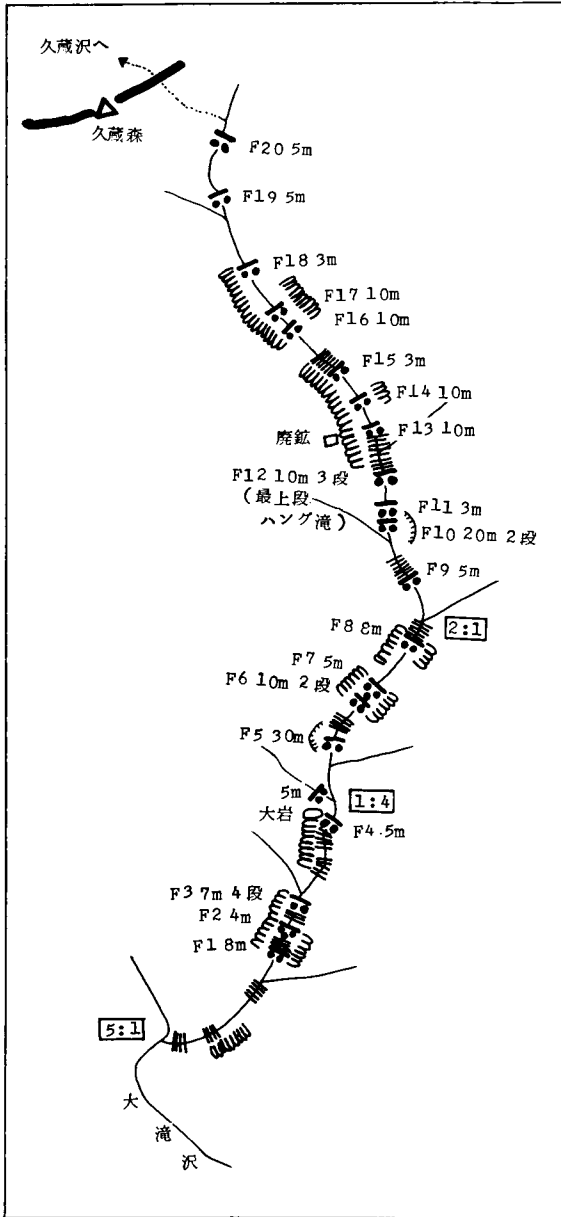
ホラ貝沢

一九七七年七月三日

◆天気(晴)

大滝のすぐ上でワラジをつけ遡行を開始する。大滝沢の特徴であるナメ滝が連続し、ホラ貝沢出合までも結構楽しい。ホラ貝沢の出合は小さな滝と、赤っぽい鉄分を含んだ水が流れているのですぐわかる。

ホラ貝沢に入るとすぐ小さなナメ。落ちてきた石がゴ



ホラ貝沢 (作図: 荻 戸)

ロゴロしている。F18以下で滝に出会うと、後はつきつきと五〜一五段級が現われ楽しい。最初のゴルジュは沢幅が一〜一・五段程だが明るい。これは両側に木がないせいである。つづくナメを行くと直径が一〇段程の大岩とわきを流れる滝にぶつかった。大岩の上部には灌木が多く生育している。

ここを過ぎるとF5三〇段のコケ滝に出会う。ホールドが細かいうえ全部下向きになっている。しかもコケが生えていてすべる。リーダーはフリーで登ったがあとはザイルで確保して登る。F8八段にて昼食。右岸にムシトリスミレの花あり。続いて左岸より注ぐ小沢には硫黄分がまじって白っぽい所がある。二〜三段と続

く滝を直登して行くと、右岸に昔の鉦山の廃鉦があった。最後のゴルジュをすぎると、あとは二、三の五メートル滝で、水量も減り沢も終わりのようだ。適当な所でやぶに入り、久蔵森の西尾根に出て、久蔵沢を下り登山道に出る。

(記：三十一)

〔タイム〕

滑川八・二〇―ホラ貝沢出合九・一五―沢終了一三・三
三五―久蔵森西尾根一四・一五―登山道一四・五〇―滑
川一六・四〇

カモシカ沢

(仮称)

一九七九年八月五日

◆天気(晴)

大滝沢F1でザイル訓練と写真撮影をしていたが、天気も良く時間も早いので、左岸の支流を偵察してみようということになり出発。

大滝沢本流に落ち込むF1はフリクションをいっぱいきかせて登り、最後の方は右側のブッシュをぞいににげる。直登できないものかと上からザイルで確保してもらいな



帰路は懸垂下降の連続となった(カモシカ沢)

がら西さんが取り付いてみたところ、ホールドは細かいし、水は冷たいので散々な目に会う。それでもやつとの思いで何とか直登。ザイルで確保してもらっていないけれどとても登れたものではないとの話である。

すぐにF2一五メートルがあらわれるがなんなく直登。ついでナメとなり快適である。F3八メートル楽に直登。一時五〇分、大きな岩が沢をふさいでいる先で支沢が合流している。

一二時一五分突然五〇メートルの大きな滝がたちふさがった。幅は広いが登るにさほどの困難はない。各自が別々